



2 学期を振り返る(その1) 1 年青峰探究

本校の高校第一学年普通科では、「青峰探究」が週に1時間開講されています。到達目標は、「SDGsに関する探究活動を通して、探究のための知識・技能の習得を図り、探究のための積極性・自律性や倫理観を涵養するとともに、基本的な論理的思考力・批判的思考力や表現力・対話力を身に付けさせ、課題発見力と課題解決力の基礎を培う」ことですが、まずは自分自身の興味や関心を中心に据えて、テーマを決め、積極的に取り組んでいます。

とは言え、探究活動とは、正解があらかじめ準備されていない課題に対して解を見出そうと取り組む学習活動です。自分で仮説を設定したり、研究計画を立てたりするには十分な情報を得ておくことが必要です。高校2,3年生の皆さんなら、この重要性が十分理解できるはずですね。特に、テーマを決めるときには、不思議に思うこと、気になることから始まって、さまざまな方法で情報を集め、その過程で、今まで知らなかった新たな課題に気づくところがスタートです。

1年青峰探究では、情報収集(主にデータ収集)に活用できるよう、e-Stat(政府統計の総合窓口。各省庁が調べている700調査以上の統計データを一か所に集めたポータルサイト)のデータを使って、集団や事象の特徴を定量化する学習を行ってきました。更に、9月18日には九州経済産業局から講師をお招きして、RESAS(地域経済分析システム。地域経済に関するビッグデータを地図上やグラフで見える化できる政府のシステム)について講演会を開き、RESASにはどのようなデータがあるのか、どのように使えるのか、など詳細に説明いただきました。残念ながら、講師の先生イチ押しの「観光」に関するデータは、たまたまその日に改修中だったため、アクセスできませんでしたが、県内市町の人口や経済に関するデータを見せてもらい、他の市町と比較するなど、データで見る「わが町」には新しい発見がありました。2時間目は自分で興味を持ったデータを収集・分析し、最後に各クラスの代表者に発表をしてもらいました。

国勢調査をはじめ、政府が行っている調査は数多くありますが、以前は各府省庁の情報は、それぞれ独自に運用するWebサイトに散在していました。一つの事象を多角的に分析するために、多くのサイトで、それぞれのデータを一つ一つ確認しながら収集する必要があったのです。しかし、現在はこれらのサイトのおかげで、大変使いやすいものになっています。一度試してみてください。



講演の様子



演習中



発表